

| | | | |
|---------------|--------------------------------------|-------|-------|
| 派遣者番号 | R4K04 | 氏名 | 塩見 健治 |
| 研究主題 —副主題— | 「読むこと」における教材研究の在り方について —文学教材を中心に— | | |
| 派遣先大学 | 創価大学教職大学院 | 指導担当者 | 石丸 憲一 |
| 所属 | 世田谷区立給田小学校 | 所属長 | 飴家 純 |

キーワード：国語科 読むこと 文学 物語 教材研究 ワークシート

要旨：本研究は、国語科「読むこと」において、若手教員が自立的に教材研究を行えるようにすることを目的とし、教材研究の具体的な手段として、「教材研究ワークシート」を考案した。研究を進めるにあたって、次の連続する2つの調査を行った。

まず、教材研究のポイントを明らかにするための調査である。ここでは、教材研究の在り方についての理論研究を行うとともに、現場の教員が実際にどのように教材研究に取り組んでいるのか、アンケート調査を行った。「理論」と「現場の実態」の両面から調査結果を比較・分析することで、教材研究のポイントを明らかにすることができた。

次に、作成した教材研究ワークシートの有効性の検証である。職歴が7年未満の若手教員が教材研究ワークシートを活用した結果、教師自身の教材の解釈を深めることができ、一貫性のある単元指導計画を立てられるようになった。また、国語科指導に対する自信や意欲の向上が見られた。

1 背景と目的

平成 29 年度版学習指導要領解説【総則編】では、児童の学びの質の向上や資質・能力の育成の在り方に関わる重要な課題として、「言語能力」を向上させていくことの重要性が述べられている。また、「言語能力」を向上させる上で、国語科の果たす役割は大きく、「国語科を要とした組織的・計画的な取組」が必要だと示されていることから、国語科の学習を充実させることがより一層学校教育に求められていることが分かる。

一方、教育現場では、ベネッセ教育総合研究所(2010)で明らかとなった通り、国語科の指導に対して自信をもてない教員が、若手教員を中心に多数いる実態がある。多くの若手教員は、自身の国語科の指導に自信や確信をもてないまま指導にあたっているのが現状なのである。

若手教員の国語科に対する苦手意識は、次の2点の課題によるものであると推測した。

1点は、「国語科の特性の捉えが曖昧である」という課題によるもの。

2点は、「教材研究の時間を十分に確保できない」という、教育現場全体に関わる課題によるもの。

そこで、教材研究の在り方について捉え直すことで、先述した2点の課題を解決できるのではないかと考え、「教材研究ワークシート」を考案することとした。ワークシートを活用し、教材研究のポイントを絞ることで、国語科の特性をおさえた教材研究を短時間でできるようにするためである。

本研究では、ワークシートの活用を通して、若手教員の教材についての理解の深まりや、指導に対する自信がどのように向上するのかを検証し、若手教員が自立的に教材研究を行えるようにすることを目的とする。

2 研究方法

本研究では、次の連続する2つの調査を行った。

(1) 教材研究を行う際のポイントを明確にするための調査

まず、教材研究の在り方について、既に提唱されている理論を整理することで、本研究における教材研究のポイントの目安を立てた。次に、都内公立小学校3校計53名の教員に、普段どのように文学教材の教材研究を行っているのか、質問紙調査やインタビュー調査を実施し、実際の現場では教員がどのように教材研究に取り組んでいるのか、その実態を明らかにした。「理論」と「実態」の両面から調査結果を比較・分析することで、現場で実際に使えるよりよい教材研究のポイントを導き出した。

(2) ワークシートを活用した教材研究の有効性についての検証

調査で明らかとなったポイントを生かして教員

が教材研究に取り組めるよう、「教材研究ワークシート」を考案した。職歴が7年未満の若手教員を対象に、いつもどおり教材研究した場合と、ワークシートを活用して教材研究をした場合とを比較することで、教材に対する理解や単元指導計画に深まりが見られたかを検証した。また、事後アンケートを実施し、教員の授業に対する自信や意欲に向上は見られたかなど、ワークシートを活用したことによる効果を調査し、ワークシートの有効性を検証した。

3 調査の結果

(1) 教材研究のポイントについて

① 「教材研究」に関する先行研究

「読むこと」における授業の在り方について、石丸(2009)は、「どう読んだか」という結果を求める学習ではなく、「どう読んでいるか」という過程を大切に学習を組み立てていかなければならないと述べている。また、そのためには「文学教材の構造と意味を自分なりに捉え…(中略)読みの過程で生まれてくる子供たちの多様な読みに授業者として対応できるだけの幅広さを身に付けておく」ことが大切であるとし、それが教材研究の目的であるとしている。

塚田(2009)は、教材研究の内容として「①素材研究、②教材分析、③指導法研究、④反応研究」の4点を柱として挙げている。

② 質問紙調査・インタビュー調査

教材研究に関する質問紙調査を通して、以下、明らかになったことの一部を示す。

- ・教材研究に用いる「着眼点の数」が多いからと言って、「教材分析ができる」「文学指導が得意」「単元計画が適切に立てられる」という教員の自己評価につながるわけではない。
- ・若手教員は、教材を読み深めるための「着眼点」を知識として理解しているものの、着眼点を用いて読み深めたことを授業に生かすことに課題意識を抱えている。
- ・若手教員の多くは、教材研究として、「登場人物を確認する」、「物語の展開を確認する」などといった、内容を「確認」するための読みをしている。
- ・ベテラン教員や国語を専門とする教員は、教材研究の過程において、教材に対する自分なりの読みや解釈をもつような、一読者としての読み(素材研究)を大切にする傾向がある。この点について、若手教員にはあまり見られなかった。以上の結果から、若手教員が自立して教材研究を行えるようにするためのポイントとして、「豊かな素材研究を可能にし、教師自身が『創造的な<読み>』を生む」ことと、「自身の読みを実際の

授業へと効果的につなげる手立ての充実」の2点
が重要であることが分かった。

(2) ワークシートの有効性について

①ワークシートの分析から

若手教員が、ワークシートを活用して教材研究
を行った結果、以下のような変化が見られた。

- ・単元の目標に向けた、一貫性のある単元指導計
画が立てられるようになった。
- ・「考えの形成」において、「精査・解釈」での読
みが生かされるような、深みのある言語活動が
設定されるようになった。
- ・「精査・解釈」において、教師自身の「素材分析」
を生かした発問や授業展開が考えられるよう
になった。
- ・教材研究の段階から、教員が具体的な授業のイ
メージをもてるようになった。

②事後アンケートから

事後アンケートでは、ワークシートを活用した
教員から以下のような意見が寄せられた。

- ・教材を自分なりに深く読み込むことができ、そ
の教材を扱う意義を理解して授業ができそう
だ。
- ・児童に指導する際に考えさせたい部分が増えた。
指導の仕方が大幅に変わると感じた。
- ・教材を読み深めることの楽しさに気付いた。
- ・これまで、「ただ教科書に載っている話」を授
業で扱っていた感覚だったが、ワークシートを
使うことで、「自分の読んだ物語」になり、それ
を授業で扱うというのは、単純に自分も楽しめ
ると感じた。授業をするのが楽しみになった。

4 考察

ワークシートを活用することによる効果として、以
下のことが考えられる。

- ・教材に対する理解や解釈が深まる。
- ・ワークシートの内容を構造化したことにより、自身
の読みを単元指導計画に生かすことができる。
- ・単元の目標に向けて、一貫性のある指導計画を考え
ることができる。
- ・明確な授業イメージをもつことができる。
- ・「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成」
など、「読むこと」単元で用いられる用語についての
理解を深めることができ、授業の流れを教師が理解
することができる。
- ・教師の文学教材指導に対する意欲や積極性を醸成す
ることができる。

教材研究の手法として「ワークシート」という形を
選んだことの良さとしては、以下のことが考えられ
る。

- ・個人の力で若手教員が自立して取り組めるため、一

人一人の能力に応じた教材研究の形と言える。

- ・教材研究の過程や結果が形として残るため、教材研
究の仕方についての自己省察が可能となり、そのよ
うな取り組みの蓄積によって教師の教材研究の力
を向上させることができる。
- ・学年や学校全体として同じワークシートに取り組む
ことにより、系統的に学びを積み重ねることが可能
となる。また、ワークシートを基にして、明確な視
点をもって教材についての話し合いや相談ができ
ようになるため、教材への理解を更に深めたり、
より適切な単元指導計画を考えたりすることにも
つながる。

5 今後の展望

本研究では、教材研究の一つの具体的な手法として、
ワークシートを用いることを提案した。提唱されてい
る教材研究についての理論を実践へと落とし込むため
の一つの手立てとして、ワークシートという形をとっ
たことは、若手教員が自立して教材研究に取り組める
ようになるためにも、効果的だったと考える。今後は、
考案したワークシートを多くの教員に実施してもらい、
実際に授業がどのように変わったかを検証していき
たい。そして、ワークシートと実際の授業との関連性を
具体的に調査、検証することによって、より効率的で
実用的な教材研究ワークシートに仕上げていきたい。